

やまと文化の森だより 企画展のご案内

併設好評開催中!!（最終日は午後3時までの展示です）

10月の企画展示

10/3（金）▶10/26（日）

○小ヶ蔵セロリーズ&馬見原三人組作品展

○～刺し子の原点小春日に～ 下川富士子作品展

○マチナカ音楽祭Vol2 10/26（日）午後1時～午後3時

ピアノや歌など、町民参加型のミュージックフェスです！

11月の企画展示

11/1（土）▶11/5（水）

○山都町いきいき学級「菊花・山野草展」

11/1（土）▶11/24（月）

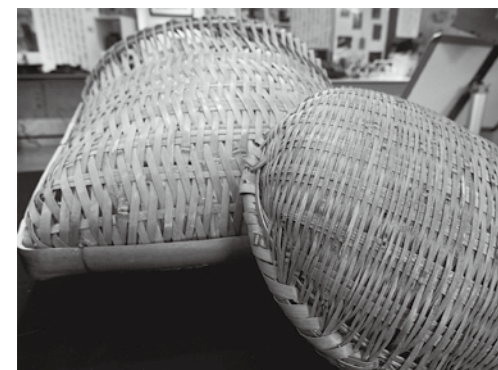
○第6回おたっしゃ作品展

山都町各地の名人のみなさんが制作した自慢の
品々を展示します。

○刀剣展示「町指定有形文化財 刀 無銘（伝阿蘇大宮司所有）」

○プティ・マルシェ

10/18（土）・10/19（日）・11/8（土）・11/9（日）



問合 山都町下市16番地 ☎72－9400 開館時間 午前9時～午後5時 入館無料
休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は次の平日）、年末年始など

山の都移住すまいるセンター通信10月号

「住まいの片付け・終活セミナー」を開催しました

8月27日矢部保健福祉センター千寿苑にて、整理収納アドバイザー兼、おしゃれ終活®・俺の終活®認定講師の山田玲子先生を講師にお迎えし、「住まいの片付け・終活セミナー」を開催しました。

セミナーでは、具体的な片付けの方法や、思い出入れが強く処分に迷うモノとの向き合い方、さらに、自身や家族のために情報を整理しておく必要性などについてのお話をいただきました。山田先生の講演は、今後の生活を少しでも明るく前向きにしていくためのヒントが詰まった内容となっており、参加者の皆様は熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

セミナー後には、「自分の物は自分で片付けたい」、「年内中にはスッキリしたい!」といった感想が多く寄せられ、参加されたみなさんの意欲が伝わってきました。

多くのご参加ありがとうございました。

問合 山の都創造課 ☎72－1158



わたしたちの人権

247

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です



人権を考える町民の集い（夏）
去る7月24日に矢部保健福祉セン
ター千寿苑において、人権を考える町
民の集いが開催されました。

元西日本新聞記者の西田昌矢さんを
講師に迎えて、「私は部落から逃げて
きた」と題して講演され、131名の
参加者がありました。
今回は講演の内容を要約して紹介し
ます。



『部落からにげて…』
被差別部落に生まれた私は、その出
自から逃げてきた。

「部落」という言葉を初めて聞いた
のは小学校に入ったばかりの頃、教員
から「部落差別に負けない子どもにな
りましょう」と言われた。ブラック？
意味はよく分からなかった。高学年に

なり地域のおじさんの結婚差別の話し
や友人の祖母から「部落の子なのに賢
いね」と言われて部落差別が昔の話に
感じていた自分に、部落差別が現実と
して降り掛かり、「部落」の文字を
見るたびに感じる恐怖や焦りを胸にし
まい込みながら生きてきた。

『記事として書くことを決めた理由』

新人記者の頃、被爆者やつらい体験
をしている外国人の方々の取材を通し
て、当事者として声を上げ、社会問題
を訴えようとしている姿を見る度に
「当事者が話す意味、重み」を考えさ
せられた。「被差別部落を出自に持つ
自身の経験を棚に上げて取材を続ける
ことに後ろめたさを感じた」記者とし
て今のままでいいのだろうか…
出自を明かすことを決意した。

①『差別の現実と私』

高学年になると、地域のおじさん
が結婚差別の体験談を語った。そ
の時の一言が胸に焼き付いた。「部
落の血が混ざると穢れる」と言わ
れたんです」穢れる… 大人が大
人に向けて放ったということが信
じられなかった。幼い私は自分の
将来を悲観した。

②

孝（仮名）さんの地元は消防車も入
れないほど家が密集し、公共施設
もなかった。隣接地域とあまりに
環境が違うのは被差別部落だから
だと知った。地域の祭りにも参加
できなかった。「祭りが穢れる」。
孝さんは、そんな心ない言葉に痛
めつけられてきた。

③

友人の隼人（仮名）は女性に交際を
申し込んだ。承諾してもらい、ほっ
とした瞬間、彼女は「私さ、部落
の生まれなんだよね」と打ち明け
た。隼人の妻になった女性はどん
な思いで部落の生まれを打ち明け
たんだろう。

④

姉は結婚を意識する年齢になっ
て、部落の生まれであることを相
手に伝えるようになった。打ち明
けるのは決まって、お互いを深く
知り、心の底から好きになる「直
前」でも伝える瞬間に抱く不安
が消えることはないという。
私自身、これまで交際相手に伝える
勇気は持てなかった。どんな反応をさ
れるかと思うと、親しい相手ほど伝え
るのが怖かった。

『伝えたいこと』

部落問題だけでない。性的少数者、
障がい者、在日外国人… 私たちのよ
うに生きづらさを感じている人はすぐ
近くにいます。仲のいい友達かもしれな
いし、恋人かもしれない。人権問題は
みんなにとって共通の課題である事を
再確認し、「何ができるか」を考えて
一人ひとりが行動を起こしてほしい。

◎参加者の声

・いまだになくすことのできていない
部落差別。そのことのおかしさを周り
の人が認識としてしっかり持つておく
ことが大切で様々な学びを子どもたち
にしっかりと感じさせていきたい。
・西田さんの祖母、お母さん、お姉さん、
友人…いろいろな方のいろんな場面での
苦悩が痛いほど伝わってきました。そ
して、その苦悩は差別する側の人々が
生み出したもの、その事実が悔しくて
はがゆい思いです。私の立場で差別解
消に向けて闘います。

・やはり本当のことを学ぶことが大切
だと改めて思った。「差別はいけない」
「部落差別をなくします」なんてされ
いごとではすまされない、そういう現
実があることを淡々と話される西田さ
んのはなしから改めて思った。だから
こそ自分は何をするか、それを考え続
け、行動し続けたい。

・結婚差別や出自を他人に伝えること
への恐怖など、部落出身者が社会の偏
見に苦しんできた様子を当事者目線
で取り上げ、家族の取材や友人、知人の
声を聴き差別の不安を抱えながら過ご
す当事者、家族、友人の揺れ動く思い
が伝わってきました。それは、誰もが
持っている人権を守る闘い（当事者し
か知り得ない、感情や葛藤との闘いも
含まれる）でもあります。

自分の人権を守り
他人の人権を守る
責任ある行動を



©2010 熊本県くまモン